

高校入試 かんたん国語マスター (上)

	章	内容	印刷	日付	点数	学年	解答
文法	1	言葉の単位	3	/	点	1年	83
	2	文の成分・連文節	4	/	点	1年	84
	3	単語の分類/名詞	5	/	点	1年	85
	4	連体詞/副詞	6	/	点	1年	86
	5	接続詞/感動詞	7	/	点	1年	87
	6	助動詞	8	/	点	2年	88
	7	助詞	9	/	点	2年	89
	8	動詞・形容詞・形容動詞の活用	10	/	点	2年	90
言葉	9	音声の働き	11	/	点	1年	91
	10	接続する語句・指示する語句	12	/	点	1年	92
	11	多義語	13	/	点	1年	93
	12	話し言葉と書き言葉	14	/	点	2年	94
	13	敬語	15	/	点	2年	95
	14	和語・漢語・外来語	16	/	点	3年	96
	15	連語/慣用句	17	/	点	3年	97
	16	曖昧な文	18	/	点	3年	98
漢字	17	音読み・訓読み	19	/	点	1年	99
	18	漢字の部首	20	/	点	1年	100
	19	漢字の成り立ち	21	/	点	1年	101
	20	形の似た漢字/同訓異字語・同音異義語	22	/	点	2年	102
	21	類義語・対義語	23	/	点	2年	103
	22	熟語の構成	24	/	点	3年	104
	23	三字熟語・四字熟語	25	/	点	3年	105
	24	間違えやすい漢字	26	/	点	3年	106
文章	25	詩①	27	/	点	2年	107
	26	詩②	28	/	点	3年	108
	27	小説文①	29	/	点	1年	109
	28	小説文②	30	/	点	2年	110
	29	随筆文①	31	/	点	2年	111
	30	随筆文②	32	/	点	3年	112
	31	論説文①	33	/	点	1年	113
	32	論説文②	34	/	点	2年	114
古文	33	歴史的仮名遣い	35	/	点	1年	115
	34	古典の文法	36	/	点	3年	116
	35	伊曾保物語	37	/	点	1年	117
	36	竹取物語	38	/	点	1年	118
	37	枕草子	39	/	点	2年	119
	38	徒然草	40	/	点	2年	120
	39	平家物語	41	/	点	2年	121
	40	古典芸能に親しもう	42	/	点	2年	122

高校入試 かんたん国語マスター (下)

月	章	内容	印刷	日付	点数	学年	解答
和歌	41	短歌①	43	/	点	2年	123
	42	短歌②	44	/	点	2年	124
	43	万葉・古今・新古今①	45	/	点	3年	125
	44	万葉・古今・新古今②	46	/	点	3年	126
	45	俳句①	47	/	点	3年	127
	46	俳句②	48	/	点	3年	128
	47	おくのほそ道①	49	/	点	3年	129
	48	おくのほそ道②	50	/	点	3年	130
漢文	49	故事成語①	51	/	点	1年	131
	50	故事成語②	52	/	点	1年	132
	51	書き下し文	53	/	点	1年	133
	52	矛盾	54	/	点	1年	134
	53	漢詩①	55	/	点	2年	135
	54	漢詩②	56	/	点	2年	136
	55	漢詩③	57	/	点	2年	137
	56	論語	58	/	点	3年	138
作文	57	小論文の書き方	59	/	点	年	139
	58	賛成と反対	60	/	点	年	140
	59	中学3年間で努力したこと	61	/	点	年	141
	60	高校の志望理由	62	/	点	年	142
	61	将来の夢	63	/	点	年	143
	62	自分の長所	64	/	点	年	144
	63	ボランティア活動	65	/	点	年	145
	64	インターネット上のマナー	66	/	点	年	146
まとめ	65	言葉の単位/文の成分	67	/	/	/	/
	66	活用のない品詞	68	/	/	/	/
	67	活用のある品詞	69	/	/	/	/
	68	言葉	70	/	/	/	/
	69	連語/慣用句/あいまいな文	71	/	/	/	/
	70	音読み・訓読み/部首	72	/	/	/	/
	71	同訓異字語・同音異義語	73	/	/	/	/
	72	熟語の構成	74	/	/	/	/
	73	類義語・対義語/熟字訓	75	/	/	/	/
	74	画数/送り仮名	76	/	/	/	/
	75	文章	77	/	/	/	/
	76	歴史的仮名遣い	78	/	/	/	/
	77	古典の文法	79	/	/	/	/
	78	短歌	80	/	/	/	/
	79	俳句	81	/	/	/	/
	80	漢文	82	/	/	/	/

6 助動詞

学年
2年

点

助動詞は活用のある**付属語**で、用言や体言にいろいろな意味を添えます。

下線部の助動詞の意味を下から選んで書きましょう。(2点×20問=40点)

① これは多くの人に使わ れる 。	② 彼女はアメリカに行く そうだ 。
③ 今回の旅行に彼は来る まい 。	④ まるで本物の ようだ 。
⑤ 明日から夏休み だ 。	⑥ 僕は卓球部に入ろ う 。
⑦ 将来のことが案じ られる 。	⑧ そんなことはあり ません 。
⑨ 夏目漱石の本を読み たい 。	⑩ どうやら彼女は歌手 らしい 。
⑪ 私は映画をあまり見 ない 。	⑫ 弟に荷物を持た せる 。
⑬ 破れ た 服を捨てる。	⑭ 祖母は少し悲し そうだ 。
⑮ 二度と失敗する まい 。	⑯ 先生が本を読ま れる 。
⑰ このキノコは食べ られる 。	⑰ 今来 た ところだ。
⑱ 彼はさぞつらかろ う 。	⑳ 昨日は雨が降 った 。

可能 自発 尊敬 使役 過去 完了 存続 意志 受け身 打ち消しの意志
 推量 推定 様態 伝聞 希望 断定 丁寧 たどえ 打ち消し 打ち消しの推量

動詞に【】内の助動詞を正しい順序で接続させましょう。(4点×5問=20点)

例 怒る+【れる・そうだ・た】	怒られた そうだ	① 取る+【れる・だろう・ない】	
② 行く+【た・ない・らしい】		③ 走る+【です・たい・ない】	
④ 歌う+【せる・う・ます】		⑤ 笑う+【れる・そうだ・たい】	

助動詞の「ない」は、「ぬ」に置き換えることができます。例) 行**ない**→行か**ぬ**、休**まない**→休ま**ぬ**

形容詞の「ない」は、「ある」に置き換えることができます。例) 見た**ことがない**→見た**ことがある**、元気が**ない**→元気が**ある**

補助形容詞の「ない」は、その前に「は」を入れることができます。例) 寒く**ない**→寒く**はない**、痛く**ない**→痛く**はない**

形容詞の一部になっている「ない」は、否定の意味はなく、元から「ない」がついています。例) あぶ**ない**、せわ**しない**、おさ**ない**

下線部の「ない」を「助動詞」「形容詞」「補助形容詞」「形容詞の一部」に分類しましょう。(2点×10問=20点)

① 走るのが速く ない 。	② あまりご飯を食べ ない
③ どうしても動か ない 。	④ おしゃれがさりげ ない 。
⑤ これはおいしく ない 。	⑥ 教室には誰も ない 。
⑦ 花の命ははか ない 。	⑧ ノートを買うお金が ない 。
⑨ 試合でこのラケットは使わ ない 。	⑩ 今日の部活は ない 。

助動詞の「らしい」は、「(の)ようだ」に置き換えることができます。例) 難**しいらしい**→難**しいようだ**、本気**らしい**→本気**のようだ**

形容詞の接尾語になっている「らしい」は、「いかにも」を補うことができます。例) 先生**らしい服**→**いかにも先生らしい服**

形容詞の一部になっている「らしい」は、元から「らしい」がついています。例) あら**らしい**、みすば**らしい**、わざと**らしい**

下線部の「らしい」を「助動詞」「形容詞の接尾語」「形容詞の一部」に分類しましょう。(2点×10問=20点)

① それは父 らしい 言葉だった。	② 彼女の作品はすば らしい 。
③ 彼は中国に帰る らしい 。	④ 彼女は男 らしい 性格だ。
⑤ あた らしい 製品が発売された。	⑥ 向こうにいるのは兄 らしい 。
⑦ 宝くじが当たった らしい 。	⑧ 子供の活躍がほ らしい 。
⑨ 子供 らしい 服装をしている。	⑩ あなたは親切な人 らしい 。

15 連語/慣用句

学年

3年

点

二つ以上の語が組み合わさって、一つのまとまった言い方になっているものを、「連語(コロケーション)」といいます。

例えば、「鍵をかける」は一つのまとまった言い方になっていて、「鍵をする」などとは言いません。

二つ以上の語が決まった形で結び付いて、全体で特別な意味をもつものを、「慣用句」といいます。

例えば、「のどから手が出る」は「欲しい気持ちが強いこと」を意味し、本当に「のどから手が出る」という意味ではありません。

()に合う言葉を下から選んで、連語を完成させましょう。(1点×12問=12点)

① 久しぶりに将棋を()。	② 隣人と碁を()。	③ 文化祭でピアノを()。
④ 人数分のお茶を()。	⑤ 寒い日の朝に霜が()。	⑥ 大勢の前で恥を()。
⑦ 座るときに足を()。	⑧ 貧しい姿に身を()。	⑨ 自分にあった眼鏡を()。
⑩ 父親と相撲を()。	⑪ 毎日少しずつ月が()。	⑫ 寒くて風邪を()。

弾く かける 入れる おりる 引く 打つ 欠ける 組む やつす 指す かく 取る

次の意味の慣用句になるように、「体」に関する漢字を下から一つずつ選んで書きましょう。(2点×20問=40点)

① 長時間歩いて疲れる。 □ が棒になる。	② 期待して待ち望む。 □ を長くする。
③ 耐えきれずに大笑いする。 □ を抱える。	④ 物の価値を見極められる。 □ が高い。
⑤ 知り合いが多い。 □ が広い。	⑥ 秘密を簡単に話してしまう。 □ が軽い。
⑦ 切迫してはらはらする。 □ に汗握る。	⑧ 努力して技術を高める。 □ を磨く。
⑨ 相手に引け目を感じる。 □ が上がらない。	⑩ がっかりして氣力を失う。 □ を落とす。
⑪ 非常に感心する。 □ を巻く。	⑫ 手間や労力がかかる。 □ が折れる。
⑬ 主導権を握られる。 □ に敷かれる。	⑭ 聞いていてつらい。 □ が痛い。
⑮ 誇らしい。 □ が高い。	⑯ 落ち着いて取りかかる。 □ を据える。
⑰ 強大で対抗できない。 □ が立たない。	⑱ 相手を倒す用意をする。 □ を研ぐ。
⑲ 実力者に相手をしてもらう。 □ を借りる。	⑳ 見放す。 □ を向ける。

あたま 顔 目 耳 鼻 口 歯 舌 首 肩 むね 胸 腹 背 腰 しり 尻 あし 足 うで 腕 て 手 つめ 爪 ほね 骨

次の意味の慣用句になるように、「生き物」や「自然」に関する漢字を下から一つずつ選んで書きましょう。(2点×20問=40点)

① 気が合う。 □ が合う。	② 強者に更に強さが加わる。 □ に金棒。
③ とても狭い。 □ の額。	④ 恐怖で体が動かない。 □ に睨まれた蛙。
⑤ とても少ない。 □ の涙。	⑥ 悪い予感がする。 □ の知らせ。
⑦ 権力者の決定的な一言。 □ の一声	⑧ 騒ぎが大きくなる。 □ の巢をつつく。
⑨ かすかで弱々しい声。 □ のなくような声。	⑩ 進み方がとても遅い。 □ の歩み。
⑪ 仕事中に怠ける。 □ を売る。	⑫ 予想が当たる。 □ が当たる。
⑬ 存在が目立たない。 □ が薄い。	⑭ まっすぐな性格である。 □ を割ったよう。
⑮ 人に勝利や名誉を譲る。 □ を持たせる。	⑯ どこからか伝わってくる噂。 □ の便り。
⑰ 時代の流れに乗る。 □ に乗る。	⑱ 経済状態が苦しい。 □ の車。
⑲ 大声で怒鳴る。 □ を落とす。	⑳ 過去のいざこざを忘れる。 □ に流す。

ねこ 猫 うま 馬 うし 牛 すずめ 雀 つる 鶴 へび 蛇 むし 虫 はち 蜂 か 蚊 おに 鬼 やま 山 かせ 風 ひ 火 あぶら 油 みず 水 なみ 波 かみなり 雷 かげ 影 はな 花 たけ 竹

慣用句に合う意味を線で結びましょう。(2点×4問=8点)

① すねをかじる。	・	・	隠し事や悪事がばれてしまう。
② さばを読む。	・	・	治る見込みがなく、医者が患者の治療をあきらめる。
③ しつぱを出す。	・	・	自分で生活出来ないため、誰かに養ってもらう。
④ さじを投げる。	・	・	年齢や金額などの数字をごまかす。

19 漢字の成り立ち

学年

1年

点

漢字は成り立ちや使い方から六通りに分類することができます。これを六書りくしょといいます。

六書は、象形・指事・会意・形声・転注・仮借の六つになります。

象形…物をかたどって作られた漢字。

例) 火 (火が燃えているところを表す)

指事…絵で描けないような物事を、線や点で象徴化して表した漢字。

例) 下 (下の方向を矢印で表す)

会意…象形や指事を合わせて、それぞれの意味を生かして作られた漢字。

例) 孫 (子からつながれた系を表す)

形声…意味を表す要素と音を表す要素を合わせて作られた漢字。

例) 花 (植物を表す部分 + 「か」を表す部分)

転注…元の意味を発展させて、関係のある別の意味を表すようになった漢字。

例) 楽 (音楽から楽しいという意味に広がった)

仮借…元の意味と関係なく、音を借りて他の意味を表すようになった漢字。

例) 垂細垂 (漢字の読み方だけで表す)

漢字の成り立ちについての分類を書きましょう。(2点×6問=12点)

①	形のない物事を、線や点で象徴して表した漢字。
②	ある漢字の意味を発展させて、関係のある別の意味にも広げて使われるようになった漢字。
③	物をかたどって作られた漢字。
④	漢字の元の意味とは無関係に、漢字の音だけを借りて他の意味を表すようになった漢字。
⑤	「意味を表す要素」と「音を表す要素」を組み合わせる作られた漢字。
⑥	既にある象形文字や指事文字を組み合わせる、それぞれの意味を生かした作られた漢字。

同じ成り立ちに分類される漢字を、下から四語ずつ選んで書きましょう。(4点×6問=24点)

①	象形					②	指事				
③	会意					④	形声				
⑤	転注					⑥	仮借				
木	上	森	楽	海	珈琲	山	長	本	印度	美	猿
孫	草	中	火	労	三	飯	千	我	目	豆	令

形声の漢字の音を表す部分を書き抜きましょう。(1点×10問=10点)

①	征	②	河	③	洗	④	想	⑤	姉
⑥	星	⑦	洋	⑧	省	⑨	怖	⑩	疲

形声の漢字に共通する部分の音をカタカナで書きましょう。(1点×10問=10点)

①	板、飯、飯	②	里、理、裏	③	精、晴、清	④	遠、猿、園	⑤	注、柱、駐
⑥	個、固、故	⑦	記、起、紀	⑧	剣、険、験	⑨	銅、洞、胴	⑩	放、訪、房

形声の漢字を、「意味を表す要素」と「音を表す要素」に分けて書きましょう。(1点×10問=10点)

①	響	②	供	③	城	④	資	⑤	姓
⑥	味	⑦	飢	⑧	晴	⑨	時	⑩	校

二つの漢字を組み合わせる作られた会意文字を、漢字一字で書きましょう。(1点×10問=10点)

①	火+田	②	田+心	③	人+言	④	人+山	⑤	人+木
⑥	夕+口	⑦	力+口	⑧	女+子	⑨	自+心	⑩	石+少

各文が表す会意の漢字を書きましょう。(2点×6問=12点)

①	鳥の口から発せられる。	②	田で力を出す。	③	木が並んで立っている。
④	山のような石。	⑤	日の光や月の光。	⑥	人の立つべきところ。

仮借文字で書かれた国名をカタカナで書き直しましょう。(2点×6問=12点)

①	垂米利加	②	伊太利亞	③	加奈陀
④	仏蘭西	⑤	伊蘭	⑥	泰

25 詩①

学年
2年

点

口語体(現在の話し言葉)で書かれた詩を口語詩、文語体(昔の書き言葉)で書かれた詩を文語詩といいます。
音数に決まりがある詩を定型詩、音数に決まりのない詩を自由詩といいます。

比喩…たとえを使った表現技法で、「ようだ」などを用いる直喩、「ようだ」などを用いない隠喩、人間にたとえる擬人法があります。

反復…同じ音や語句を繰り返して、印象を強める表現技法。

倒置…言葉の順序を入れ替えて、強調する表現技法。

体言止め…行の終わりを体言(名詞)で止め、簡潔で引き締まった印象を残す表現技法。

対句…似た構成で意味も対応する二つの語句や文を並べて、興味をひきつける表現技法。

押韻…行の初めや終わりを同じ音でそろえて、調子を整える表現技法。

谷川俊太郎の「未来へ」という詩を読んで、後の問いに答えましょう。(10点×8問=80点)

① 道ばたの①このスミが今日咲くまでに どれだけの時が必要だったことだろう
この形この色この香りは計りしれぬ過去から来た

② 遠く地平へと続くこの道ができるまでに どれだけのけものが人々が通ったことだろう
足元の土に無数の生と死が埋もれている

③ 照りつけるこの太陽がいつか冷えるまでに 目に見えないどんな力が働くのだろう
私たちもまた②その力によって生れてきた

④ 人は限らないものを知ることはできない
③だが人はそれを生きることができる 限りある日々の彼方を見つめて

⑤ ④未だ来ないものを人は待ちながら創っていく
誰もきみに未来を贈ることはできない ⑤何故ならきみが未来だから

① 線①の「このスミ」と同じように、作者が見つめているものを二つ、詩の中から五字以内で抜き出しましょう。
()と()

② 線②の「その力」とは、どのような力ですか。
()力。

③ 線③の「だが人はそれを生きることができる 限りある日々の彼方を見つめて」で用いられている表現技法はどれですか。
ア 比喩 イ 反復 ウ 倒置 エ 体言止め オ 対句 カ 押韻

④ 線④の「未だ来ないもの」とは何ですか。詩の中から抜き出しましょう。
自分の□□

⑤ 線⑤の「なぜならきみが未来だから」には、作者のどのような思いが込められていますか。
()は自分で()ほしいという思い。

⑥ この詩はどのような形式ですか。
ア 口語の定型詩 イ 口語の自由詩 ウ 文語の定型詩 エ 文語の自由詩

⑦ 作者が「過去」のことを思って書いているのは、どの連ですか。
第□連と第□連

⑧ 第1連から第3連にかけて、作者の視点はどのように動いていますか。適切な方を○で囲みましょう。
(近く / 遠く)の(高い / 低い)位置からだんだん(近く / 遠く)の(高い / 低い)位置へと動いている。

次の文の下線部で使われている表現技法を書きましょう。(5点×4問=20点)

① 夏が過ぎていく、駆け足で過ぎていく。 → ()

② 彼の心は氷のように冷たい。 → ()

③ 耳の奥でいつまでも響き続ける、あなたの声。 → ()

④ 空はどこまでも高く、海は果てしなく広い。 → ()

44 万葉・古今・新古今②

学年
3年

点

表現効果を高める技法を修辞といい、一つの語に複数の意味を持たせる修辞を掛詞といいます。

特定の語句を導き出すための修辞で、文字数に制限があるものを枕詞といい、文字数に制限がないものを序詞といいます。

枕詞…韓衣→裾・袖、あしひきの→山・峰、ひさかたの→光・月、ちはやぶる→神、白たへの→衣、たらちねの→母

序詞…新しき年の初めの初春の今日降る雪の→いやしけ、むすぶ手の滴ににごる山の井の→あかでも

和歌を読んで、後の問いに答えましょう。(10点×10問=100点)

A	韓衣 裾に取りつき 泣く子らを 置きてそ来ぬや 母なしにして (裾にしがみついて泣く子供らを、置いてきてしまったなあ。母親もいないのに。)	【防人歌】 (万葉集)
B	あしひきの 山のしづくに 妹待つと わが立ち濡れし 山のしづくに (山の雫に君を待ち続けて僕は濡れなくなってしまった。山の雫によって。)	【大津皇子】 (万葉集)
C	新しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いやしけ吉事 (新しい年の初め、初春の今日降る雪のように、ますます積もりますます、良い事が。)	【お伴家持】 (万葉集)
D	ひさかたの 光のどけき 春の日に しづこなく 花の散るらむ (光がのどかな春の日に、どうして落ち着いた心もなく花は散るのだろう。)	【紀友則】 (古今和歌集)
E	むすぶ手の 滴ににごる 山の井の あかでも人に わかれぬる哉 (両手からこぼれる滴でにごるほど浅い山の井戸のように、飽きないうちにあの人と別れてしまったなあ。)	【紀貫之】 (古今和歌集)
F	ちはやぶる 神世も聞かず たつた河 から紅に 水くるとは (神の時代にも聞いたことがない。竜田川がもみじの葉で水を染めるとは。)	【在原業平】 (古今和歌集)
G	道の辺に 清水ながる 柳かげ しばしとてこそ 立ちどまりつれ (道の脇に清水が流れる柳の木陰がある。ほんの少しと思えば立ち止まったら、長居をしてしまった。)	【西行法師】 (新古今和歌集)
H	さびしさは その色としも なかりけり 真木たつ山の 秋の夕暮 (寂しさは、その色のせいということではないのだなあ。楨が立つ山の秋の夕暮れが寂しさを感じさせる。)	【寂蓮法師】 (新古今和歌集)
①	Aの和歌から「枕詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 枕詞…()、係る言葉…()	
②	Bの和歌から「枕詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 枕詞…()、係る言葉…()	
③	Cの和歌から「序詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 序詞…()、係る言葉…()	
④	Cの和歌で使われている表現技法を二つ選びましょう。 ア 擬人法 イ 倒置 ウ 反復 エ 対句 オ 体言止め	
⑤	Dの和歌から「枕詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 枕詞…()、係る言葉…()	
⑥	Eの和歌から「序詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 序詞…()、係る言葉…()	
⑦	Eの和歌の「あかでも」は「飽きないのに(満足しないのに)」という掛詞です。「満足していないもの」を二つ選びましょう。 ア 水が濁っていること イ 水が飲めないこと ウ 十分話せないこと エ 出会いがないこと オ 井戸が遠いこと	
⑧	Fの和歌の「くるとは」は掛詞で二つの意味があります。その二つを選びましょう。 ア 水が流れない イ 水があふれる ウ 水が葉の下をくぐる エ 水を汚す オ 水を染める	
⑨	Gの和歌から「係りの語」と「結びの語」を抜き出し、「結びの語の活用形」を書きましょう。 係りの語…() 結びの語…() 結びの語の活用形…()	
⑩	Hの和歌の句切れはどれですか。 ア 初句切れ イ 二句切れ ウ 三句切れ エ 四句切れ オ 句切れなし	

57 小論文の書き方

学年

3年

点

自分の意見をはっきり述べる小論文では、「～である」「～だ」で終わる常体か、「～です」「～ます」で終わる敬体で統一します。小学校や中学校で習った漢字は、できるだけ漢字で書きましょう。縦書きの場合、数字は漢数字で書きます。

句読点を付け忘れないようにしましょう。?や!のような記号は使いません。

自分は「私」か「僕」、相手は「あなた」と表します。例) × うち、俺、お前、あんた ○ 私、僕、あなた
 尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使いましょう。例) × 校長、お兄さん、おじさん ○ 校長先生、兄、祖父
 短縮した言葉は使いません。例) × 携帯、模試、朝練 ○ 携帯電話、模擬試験、朝練習

小論文について述べた文の□に当てはまる言葉を書きましよう。(5点×2問=10点)

① 小論文を書くときは、「～である」「～だ」で終わる□□か、「～です」「～ます」で終わる□□で統一する。

② 縦書きの場合、数字は□□□で書き、□や□のような記号は使わない。

小論文として正しい書き方に直しましよう。(2点×15問=30点)

① あたし	② きみ	③ 校長	④ 教頭	⑤ 担任
⑥ お父さん	⑦ お母さん	⑧ お姉さん	⑨ おばあさん	⑩ おじさん
⑪ コンビニ	⑫ ネット	⑬ スマホ	⑭ 入試	⑮ 部活

小論文を読んで、下線部の語句を正しく書き直しましよう。(2点×30問=60点)

①俺は、他人を思いやることは相手の立場を理解したうえで行動することだと考える。

僕には、クラスメイトのために保健室に付き添った経験がある。そのクラスメイトとは、それまでに②話しをしたことがなかった。③でも具合が悪そうだったから、保健室に行くときに④手助けしたのです。そうしたところ、彼に⑤すごく感謝された。このように、相手の立場を理解することができれば、相手が望んでいることを自分の力で考えようと⑥努力します。その結果、相手の気持ちを⑦察することができる。こうして相手を理解し、思いやることが⑧できるんだ。

⑨ですから私は、他人を思いやることは相手の立場を理解したうえで行動することだと⑩考えたのです。これから社会に出ると、⑪いろんな立場の人と⑫出合うことになるだろう。そのときに備えて、相手の立場をより理解できるように努力したいと⑬思ってる。そのためには言葉だけでなく、相手の⑭表情とかをとらえることや、⑮困っている人にも積極的に関わることを心がけたい。

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮

地球環境を守るためには、役所や会社、そして住民である⑯あたしたちそれぞれが協力しなければならない。⑰なぜかという、皆が環境問題に関心を持てば、環境を破壊する行動をおさえることが⑱できるからです。

粗大ごみの不法投棄を例にあげて考えてみたい。⑲前に、粗大ごみの不法投棄に⑳悩やむ町のことを㉑ネットの㉒にゆーすで見たことがある。山奥の道路沿いには、いろいろなごみが㉓拾てられ、景観を壊していた。なかには産業廃棄物と思われる物も含まれており、土壌を㉔汚せんする恐れが㉕ありました。近所に住む人に迷惑がかかるだけでなく、町役場でも処理に税金を使わなければならないと困っている㉖みだだった。町役場だけが環境問題に取り組むのでは不十分である。環境問題に関心を持たない人は、どうしても自己中心的に考えて、環境を守る行動をとらない㉗とゆうことが多くなる。その結果、環境は㉘どんどん悪くなる。

つまり、環境を保護するには皆が手を取り合うことが㉙必要なんだ。皆が環境問題に関心を持ち、環境を守る行動をとれば、環境を破壊することがおさえられるのである。今後は、リサイクル、リユース、リデュースの3Rを推し進める必要があると㉚思う!

⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
㉖	㉗	㉘	㉙	㉚

67 活用のある品詞

確認した日

/ / / /

右側を隠して答えを考え、正解なら○、不正解なら×をつけ、×を見直しましょう。三日後、十日後、二十日後に繰り返しましょう。

<p>じっしゅるい ひんし かつよう ご こと 十種類の品詞のうち、活用する語をすべて答えましょう。</p>	<p>どうし けいようし けいようどうし じょどうし 動詞、形容詞、形容動詞、助動詞 ご かつ へん か かつよう 語の形が変化することを活用という。</p>
<p>つぎ ご ひんし めい こと 次の語の品詞名を答えましょう。 うつく たの おお 美しい、楽しい、大きい</p>	<p>けいようし 形容詞 じょうたい せいしつ あらわ い き 状態や性質を表し、「い」で言い切る。</p>
<p>つぎ ご ひんし めい こと 次の語の品詞名を答えましょう。 きれいだ、大変だ、大らかだ</p>	<p>けいようどうし 形容動詞 じょうたい せいしつ あらわ ご び 状態や性質を表し、語尾が「な」「だ」「に」になる。</p>
<p>かせんぶ ひんし なん 下線部の「品詞」は何ですか。 うご <u>かない</u>、<u>食べない</u>、<u>使わない</u></p>	<p>じょどうし 助動詞 「ない」を「ぬ」に置き換えられる。→ <u>動かぬ</u></p>
<p>かせんぶ ひんし なん 下線部の「品詞」は何ですか。 かねが <u>ない</u>、部活が <u>ない</u>、意味が <u>ない</u></p>	<p>けいようし 形容詞 「ない」を「ある」に置き換えられる。→ <u>お金がある</u></p>
<p>かせんぶ ひんし なん 下線部の「品詞」は何ですか。 はや <u>くない</u>、おいしく <u>ない</u>、痛く <u>ない</u></p>	<p>(ほじょ) けいようし (補助)形容詞 「ない」の前に「は」を入れられる。→ <u>速くはない</u></p>
<p>かせんぶ ひんし なん 下線部の「品詞」は何ですか。 <u>はかない</u>、<u>さりげない</u>、<u>あぶない</u></p>	<p>けいようし 形容詞 もと 元から「ない」がついている。</p>
<p>かせんぶ ひんし なん 下線部の「品詞」は何ですか。 かえ <u>ら</u>しい、<u>あ</u>たったら<u>ら</u>しい、<u>しんせつ</u>な<u>ら</u>しい</p>	<p>じょどうし 助動詞 「らしい」を「(の)ようだ」に置き換えられる。→ <u>帰るようだ</u></p>
<p>かせんぶ ひんし なん 下線部の「品詞」は何ですか。 ちち <u>ら</u>しい言葉だ、子供 <u>ら</u>しい服装、男 <u>ら</u>しい性格</p>	<p>けいようし せつび ご 形容詞(の接尾語) 「らしい」に「いかにも」を補える。→ <u>いかにも父らしい</u></p>
<p>かせんぶ ひんし なん 下線部の「品詞」は何ですか。 <u>あたら</u>しい製品、<u>すばら</u>しい作品、活躍が <u>ほこら</u>しい</p>	<p>けいようし 形容詞 もと 元から「らしい」がついている。</p>
<p>どうし かつよう 動詞の活用には、どのような形がありますか。</p>	<p>み ぜんけい (…ない)、れんようけい (…ます)、しゅうしけい (…。)、 れんたいけい (…とき)、かていけい (…ば)、めいれいけい (…！) 未然形(…ない)、連用形(…ます)、終止形(…。)、 連体形(…とき)、仮定形(…ば)、命令形(…！)</p>
<p>つぎ どうし かつよう しゅるい なん 次の動詞の「活用の種類」は何ですか。 「着く」</p>	<p>ご だんかつよう …「ない」の直前の音がア段→<u>着か</u>(ない) つ着…<u>か</u>(ない)/<u>き</u>(ます)/<u>く</u>(。)/<u>く</u>(とき)/<u>け</u>(ば)/<u>け</u>(!!)</p>
<p>つぎ どうし かつよう しゅるい なん 次の動詞の「活用の種類」は何ですか。 「起きる」</p>	<p>かみいちだんかつよう …「ない」の直前の音がイ段になる。 お起…<u>き</u>(ない)/<u>き</u>(ます)/<u>きる</u>(。)/<u>きる</u>(とき)/<u>きれ</u>(ば)/<u>きよ</u>(!!)</p>
<p>つぎ どうし かつよう しゅるい なん 次の動詞の「活用の種類」は何ですか。 「教える」</p>	<p>しもいちだんかつよう …「ない」の直前の音がエ段になる。 おし教…<u>え</u>(ない)/<u>え</u>(ます)/<u>える</u>(。)/<u>える</u>(とき)/<u>えれ</u>(ば)/<u>えよ</u>(!!)</p>
<p>つぎ どうし かつよう しゅるい なん 次の動詞の「活用の種類」は何ですか。 「来る」</p>	<p>きようへんかくかつよう …「来る」だけの特殊な活用。 来…<u>こ</u>(ない)/<u>き</u>(ます)/<u>くる</u>(。)/<u>くる</u>(とき)/<u>くれ</u>(ば)/<u>こい</u>(!!)</p>
<p>つぎ どうし かつよう しゅるい なん 次の動詞の「活用の種類」は何ですか。 「練習する」</p>	<p>ぎようへんかくかつよう …「する(ずる)」がつく語の特殊な活用。 れんしゅう練習…<u>し</u>(ない)/<u>し</u>(ます)/<u>する</u>(。)/<u>する</u>(とき)/<u>すれ</u>(ば)/<u>せよ</u>(!!)</p>
<p>けいようし かつよう かつち 形容詞の活用には、どのような形がありますか。 「う」「た/ない/ございます」「。」「とき」「ば」をつけて、 「明るい」の活用の形をすべて答えましょう。</p>	<p>あか 明る… <u>かろ</u>(う)/<u>かつ</u>(た)/<u>く</u>(ない)/<u>う</u>(ございます)<u>い</u>(。)/<u>い</u>(とき)/<u>けれ</u>(ば)</p>
<p>けいようどうし かつよう かつち 形容動詞の活用には、どのような形がありますか。</p>	<p>み ぜんけい (…う)、れんようけい (…た/…ない/…なる)、 しゅうしけい (…。)、れんたいけい (…とき)、かていけい (…ば) 未然形(…う)、連用形(…た/…ない/…なる)、 終止形(…。)、連体形(…とき)、仮定形(…ば)</p>
<p>「う」「た/ない/なる」「。」「とき」「ば」をつけて、 「豊かだ」の活用の形をすべて答えましょう。</p>	<p>ゆた 豊か… <u>だろ</u>(う)/<u>だつ</u>(た)/<u>で</u>(ない)/<u>に</u>(なる)<u>だ</u>(。)/<u>な</u>(とき)/<u>なら</u>(ば)</p>

右側を隠して答えを考え、正解なら○、不正解なら×をつけ、×を見直しましょう。三日後、十日後、二十日後に繰り返しましょう。

<p>次の故事成語の意味を答えましょう。 「五十歩百歩」</p>	<p>ちが 違うように見えても、 じっさい 実際はほとんど かわら 変わらないこと。</p>
<p>次の故事成語の意味を答えましょう。 「背水の陣」</p>	<p>いっ 一歩も後に引けない じょうたい 状態で、 ぜんりよく 全力を つくす 尽くすこと。</p>
<p>次の故事成語の意味を答えましょう。 「漁夫の利」</p>	<p>に 二者が争う間に、 さん 第三者が りえき 利益を取る こと。</p>
<p>次の故事成語の意味を答えましょう。 「蜚雪の功」</p>	<p>くろう 苦勞して がくもん 学問にはげむ こと。</p>
<p>次の故事成語の意味を答えましょう。 「蛇足」</p>	<p>よぶん 余分なもの。</p>
<p>次の故事成語の意味を答えましょう。 「推敲」</p>	<p>よりよい 文章にするために、 なんど 何度も ひょうげん 表現を ね 練ること。</p>
<p>次の故事成語の意味を答えましょう。 「吳越同舟」</p>	<p>なか 仲の悪い者が、 おなじ 場所に いっしょ 居合わせること。</p>
<p>次の故事成語の意味を答えましょう。 「画竜点睛」</p>	<p>ものごと 物事を しあげ 上げるのに、 さいご 最後に加える たいせつ 大切な点。</p>
<p>返り点にしたがって読むときの順番を数字で書きましょう。 □ □ ↓ □ □ ↓ □ □</p>	<p>1 3 ↓ 2 5 ↓ 4 6 レ点がある場合、すぐ前の一字に返って読む。</p>
<p>返り点にしたがって読むときの順番を数字で書きましょう。 □ □ = □ □ - □ □</p>	<p>1 4 = 2 3 - 5 6 一二点がある場合、一を読んでから二に返って読む。</p>
<p>返り点にしたがって読むときの順番を数字で書きましょう。 □ 下 □ = □ □ - □ □ 上</p>	<p>6 下 3 = 1 2 - 4 5 上 上下点がある場合、上を読んでから下に返って読む。</p>
<p>返り点にしたがって読むときの順番を数字で書きましょう。 □ = □ □ ↓ □ □ ↓ □</p>	<p>6 = 1 3 ↓ 2 5 ↓ 4 ㄐ点がある場合、すぐ前の一字に返った後に二を読む。</p>
<p>返り点に従って読む訓読文を 仮名交じりで書き改めたものを何といいますか。</p>	<p>かくだぶん 書き下し文 おくりがな 送り仮名は歴史的仮名遣い のままひらがなで書く。</p>
<p>「不」「無し」「也」「乎」「可し」のような助詞や助動詞にあたる語は、書き下し文ではどのように書きますか。</p>	<p>ひらがなで書く。 「而」「於」「矣」などの置き字は訓読するときに読まない。</p>
<p>訓読文を書き下し文に直しましょう。 楚人ニ有リ下鬻グニ盾ヲ矛一者上。</p>	<p>そひと たて ぼこ ひき もの あ 楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。</p>
<p>訓読文を書き下し文に直しましょう。 吾ガ矛ノ利キコト、於テ物ニ無キレ不レ陥サ也。</p>	<p>わが ぼこ とう ぼこ もの お とう ぼこ 吾が矛の利きこと、物に於いて陥さざるなきなり。</p>
<p>五字×四句からなる漢詩を何といいますか。</p>	<p>ごごんぜつこく 五言絶句 にくめ よんくめ さいご もじ いん ふ 二句目と四句目の最後の文字で韻を踏む。</p>
<p>七字×四句からなる漢詩を何といいますか。</p>	<p>しちごんぜつこく 七言絶句 いっくめ にくめ よんくめ さいご もじ いん ふ 一句目と二句目と四句目の最後の文字で韻を踏む。</p>
<p>五字×八句からなる漢詩を何といいますか。</p>	<p>ごごんりつし 五言律詩 くうすう く さいご もじ いん ふ 偶数の句の最後の文字で韻を踏む。</p>
<p>七字×八句からなる漢詩を何といいますか。</p>	<p>しちごんりつし 七言律詩 くうすう く さいご もじ いん ふ 偶数の句の最後の文字で韻を踏む。</p>

助動詞は活用のある付属語で、用言や体言にいろいろな意味を添えます。

下線部の助動詞の意味を下から選んで書きましょう。(2点×20問=40点)

① これは多くの人に使わ <u>れる</u> 。	受け身	② 彼女はアメリカに行く <u>そうだ</u> 。	伝聞
③ 今回の旅行に彼は来る <u>まい</u> 。	打ち消しの推量	④ まるで本物の <u>ようだ</u> 。	たとえ
⑤ 明日から夏休み <u>だ</u> 。	断定	⑥ 僕は卓球部に入 <u>ろう</u> 。	意志
⑦ 将来のことが案じ <u>られる</u> 。	自発	⑧ そんなことはあり <u>ません</u> 。	丁寧
⑨ 夏目漱石の本を読み <u>たい</u> 。	希望	⑩ どうやら彼女は歌手 <u>らしい</u> 。	推定
⑪ 私は映画をあまり見 <u>ない</u> 。	打ち消し	⑫ 弟に荷物を持 <u>たせる</u> 。	使役
⑬ 破れた <u>た</u> 服を捨てる。	存続	⑭ 祖母は少し悲し <u>そうだ</u> 。	様態
⑮ 二度と失敗する <u>まい</u> 。	打ち消しの意志	⑯ 先生が本を読み <u>れる</u> 。	尊敬
⑰ このキノコは食べ <u>られる</u> 。	可能	⑱ 今来 <u>た</u> ところだ。	完了
⑲ 彼はさぞつら <u>かろう</u> 。	推量	⑳ 昨日は雨が降 <u>った</u> 。	過去

可能 自発 尊敬 使役 過去 完了 存続 意志 受け身 打ち消しの意志
 推量 推定 様態 伝聞 希望 断定 丁寧 たとえ 打ち消し 打ち消しの推量

動詞に【】内の助動詞を正しい順序で接続させましょう。(4点×5問=20点)

例 怒る+【れる・そうだ・た】	怒られた <u>そうだ</u>	① 取る+【れる・だろう・ない】	取られない <u>だろう</u>
② 行く+【た・ない・らしい】	行かなか <u>たら</u> らしい	③ 走る+【です・たい・ない】	走りたく <u>ない</u> です
④ 歌う+【せる・う・ます】	歌わせ <u>ま</u> しょう	⑤ 笑う+【れる・そうだ・たい】	笑われたい <u>そう</u> だ

助動詞の「ない」は、「ぬ」に置き換えることができます。例) 行かない→行かぬ、休まない→休まぬ
 形容詞の「ない」は、「ある」に置き換えることができます。例) 見たことがない→見たことがある、元気がない→元気がある
 補助形容詞の「ない」は、その前に「は」を入れることができます。例) 寒くない→寒くはない、痛くない→痛くはない
 形容詞の一部になっている「ない」は、否定の意味はなく、元から「ない」がついています。例) あぶない、せわしい、おさない

下線部の「ない」を「助動詞」「形容詞」「補助形容詞」「形容詞の一部」に分類しましょう。(2点×10問=20点)

① 走るのが速く <u>ない</u> 。	補助形容詞	② あまりご飯を食べ <u>ない</u>	助動詞
③ どうしても動か <u>ない</u> 。	助動詞	④ おしゃれがさりげ <u>ない</u> 。	形容詞の一部
⑤ これはおいしく <u>ない</u> 。	補助形容詞	⑥ 教室には誰も <u>ない</u> 。	助動詞
⑦ 花の命ははか <u>ない</u> 。	形容詞の一部	⑧ ノートを買うお金が <u>ない</u> 。	形容詞
⑨ 試合でこのラケットは使わ <u>ない</u> 。	助動詞	⑩ 今日の部活は <u>ない</u> 。	形容詞

助動詞の「らしい」は、「(の)ようだ」に置き換えることができます。例) 難しいらしい→難しいようだ、本気らしい→本気のようだ
 形容詞の接尾語になっている「らしい」は、「いかにも」を補うことができます。例) 先生らしい服→いかにも先生らしい服
 形容詞の一部になっている「らしい」は、元から「らしい」がついています。例) あららしい、みすばらしい、わざとらしい

下線部の「らしい」を「助動詞」「形容詞の接尾語」「形容詞の一部」に分類しましょう。(2点×10問=20点)

① それは父 <u>らしい</u> 言葉だった。	形容詞の接尾語	② 彼女の作品はすば <u>らしい</u> 。	形容詞の一部
③ 彼は中国に帰る <u>らしい</u> 。	助動詞	④ 彼女は男 <u>らしい</u> 性格だ。	形容詞の接尾語
⑤ あた <u>らしい</u> 製品が発売された。	形容詞の一部	⑥ 向こうにいるのは兄 <u>らしい</u> 。	助動詞
⑦ 宝くじが当たった <u>らしい</u> 。	助動詞	⑧ 子供の活躍がほ <u>こらしい</u> 。	形容詞の一部
⑨ 子供 <u>らしい</u> 服装をしている。	形容詞の接尾語	⑩ あなたは親切な人 <u>らしい</u> 。	助動詞

15 連語/慣用句

学年

3年

点

二つ以上の語が組み合わさって、一つのまとまった言い方になっているものを、「連語(コロケーション)」といいます。

例えば、「鍵をかける」は一つのまとまった言い方になっていて、「鍵をする」などとは言いません。

二つ以上の語が決まった形で結び付いて、全体で特別な意味をもつものを、「慣用句」といいます。

例えば、「のどから手が出る」は「欲しい気持ちが強いこと」を意味し、本当に「のどから手が出る」という意味ではありません。

()に合う言葉を下から選んで、連語を完成させましょう。(1点×12問=12点)

① 久しぶりに将棋を(指す)。	② 隣人と碁を(打つ)。	③ 文化祭でピアノを(弾く)。										
④ 人数分のお茶を(いれる)。	⑤ 寒い日の朝に霜が(お りる)。	⑥ 大勢の前で恥を(か く)。										
⑦ 座るときに足を(組 む)。	⑧ 貧しい姿に身を(や つす)。	⑨ 自分にあった眼鏡を(か ける)。										
⑩ 父親と相撲を(と る)。	⑪ 毎日少しずつ月が(欠 ける)。	⑫ 寒くて風邪を(引 く)。										
弾く	かける	いれる	お	りる	引く	打つ	欠ける	組む	やつす	指す	かく	取る

次の意味の慣用句になるように、「体」に関する漢字を下から一つずつ選んで書きましょう。(2点×20問=40点)

① 長時間歩いて疲れる。 足 が棒になる。	② 期待して待ち望む。 首 を長くする。																			
③ 耐えきれずに大笑いする。 腹 を抱える。	④ 物の価値を見極められる。 目 が高い。																			
⑤ 知り合いが多い。 顔 が広い。	⑥ 秘密を簡単に話してしまう。 口 が軽い。																			
⑦ 切迫してはらはらする。 手 に汗握る。	⑧ 努力して技術を高める。 腕 を磨く。																			
⑨ 相手に引け目を感じる。 頭 が上がらない。	⑩ がっかりして氣力を失う。 肩 を落とす。																			
⑪ 非常に感心する。 舌 を巻く。	⑫ 手間や労力がかかる。 骨 が折れる。																			
⑬ 主導権を握られる。 尻 に敷かれる。	⑭ 聞いていてつらい。 耳 が痛い。																			
⑮ 誇らしい。 鼻 が高い。	⑯ 落ち着いて取りかかる。 腰 を据える。																			
⑰ 強大で対抗できない。 歯 が立たない。	⑱ 相手を倒す用意をする。 爪 を研ぐ。																			
⑲ 実力者に相手をしてもらう。 胸 を借りる。	⑳ 見放す。 背 を向ける。																			
あたま	かお	め	みみ	はな	くち	は	した	くび	かた	むね	はら	せ	こし	しり	尻	あし	うで	て	つめ	ほね
頭	顔	目	耳	鼻	口	歯	舌	首	肩	胸	腹	背	腰	尻	足	腕	手	爪	骨	

次の意味の慣用句になるように、「生き物」や「自然」に関する漢字を下から一つずつ選んで書きましょう。(2点×20問=40点)

① 気が合う。 馬 が合う。	② 強者に更に強さが加わる。 鬼 に金棒。																		
③ とても狭い。 猫 の額。	④ 恐怖で体が動かない。 蛇 に睨まれた蛙。																		
⑤ とても少ない。 雀 の涙。	⑥ 悪い予感がする。 虫 の知らせ。																		
⑦ 権力者の決定的な一言。 鶴 の一声	⑧ 騒ぎが大きくなる。 蜂 の巣をつつく。																		
⑨ かすかで弱々しい声。 蚊 のなくような声。	⑩ 進み方がとても遅い。 牛 の歩み。																		
⑪ 仕事中に怠ける。 油 を売る。	⑫ 予想が当たる。 山 が当たる。																		
⑬ 存在が目立たない。 影 が薄い。	⑭ まっすぐな性格である。 竹 を割ったよう。																		
⑮ 人に勝利や名誉を譲る。 花 を持たせる。	⑯ どこからか伝わってくる噂。 風 の便り。																		
⑰ 時代の流れに乗る。 波 に乗る。	⑱ 経済状態が苦しい。 火 の車。																		
⑲ 大声で怒鳴る。 雷 を落とす。	⑳ 過去のいざこざを忘れる。 水 に流す。																		
ねこ	うま	うし	すずめ	つる	へび	むし	はち	か	おに	やま	かせ	ひ	あぶら	みず	なみ	かみなり	かげ	はな	たけ
猫	馬	牛	雀	鶴	蛇	虫	蜂	蚊	鬼	山	風	火	油	水	波	雷	影	花	竹

慣用句に合う意味を線で結びましょう。(2点×4問=8点)

① すねをかじる。	隠し事や悪事がばれてしまう。
② さばを読む。	治る見込みがなく、医者が患者の治療をあきらめる。
③ しつぱを出す。	自分で生活出来ないため、誰かに養ってもらう。
④ さじを投げる。	年齢や金額などの数字をごまかす。

19 漢字の成り立ち

学年

1年

点

漢字は成り立ちや使い方から六通りに分類することができます。これを六書りくしょといいます。

六書は、象形・指事・会意・形声・転注・仮借の六つになります。

象形…物をかたどって作られた漢字。

例) 火 (火が燃えているところを表す)

指事…絵で描けないような物事を、線や点で象徴化して表した漢字。

例) 下 (下の方向を矢印で表す)

会意…象形や指事を合わせて、それぞれの意味を生かして作られた漢字。

例) 孫 (子からつながれた系を表す)

形声…意味を表す要素と音を表す要素を合わせて作られた漢字。

例) 花 (植物を表す部分 + 「か」を表す部分)

転注…元の意味を発展させて、関係のある別の意味を表すようになった漢字。

例) 楽 (音楽から楽しいという意味に広がった)

仮借…元の意味と関係なく、音を借りて他の意味を表すようになった漢字。

例) 垂細垂 (漢字の読み方だけで表す)

漢字の成り立ちについての分類を書きましょう。(2点×6問=12点)

①	形のない物事を、線や点で象徴して表した漢字。	指事
②	ある漢字の意味を発展させて、関係のある別の意味にも広げて使われるようになった漢字。	転注
③	物をかたどって作られた漢字。	象形
④	漢字の元の意味とは無関係に、漢字の音だけを借りて他の意味を表すようになった漢字。	仮借
⑤	「意味を表す要素」と「音を表す要素」を組み合わせて作られた漢字。	形声
⑥	既にある象形文字や指事文字を組み合わせて、それぞれの意味を生かした作られた漢字。	会意

同じ成り立ちに分類される漢字を、下から四語ずつ選んで書きましょう。(4点×6問=24点)

①	象形	木	山	火	目	②	指事	上	本	中	三
③	会意	森	美	孫	千	④	形声	海	猿	草	飯
⑤	転注	楽	長	勞	令	⑥	仮借	珈琲	印度	我	豆
木	上	森	楽	海	珈琲	山	長	本	印度	美	猿
孫	草	中	火	勞	三	飯	千	我	目	豆	令

形声の漢字の音を表す部分を書き抜きましょう。(1点×10問=10点)

①	征	正	②	河	可	③	洗	先	④	想	相	⑤	姉	市
⑥	星	生	⑦	洋	羊	⑧	省	少	⑨	怖	布	⑩	疲	皮

形声の漢字に共通する部分の音をカタカナで書きましょう。(1点×10問=10点)

①	板、飯、飯	ハン	②	里、理、裏	リ	③	精、晴、清	セイ	④	遠、猿、園	エン	⑤	注、柱、駐	チュウ
⑥	個、固、故	コ	⑦	記、起、紀	キ	⑧	剣、険、験	ケン	⑨	銅、洞、胴	ドウ	⑩	放、訪、房	ホウ

形声の漢字を、「意味を表す要素」と「音を表す要素」に分けて書きましょう。(1点×10問=10点)

①	響	音+郷	②	供	人+共	③	城	土+成	④	資	貝+次	⑤	姓	女+生
⑥	味	口+未	⑦	飢	食+几	⑧	晴	日+青	⑨	時	日+寺	⑩	校	木+交

二つの漢字を組み合わせて作られた会意文字を、漢字一字で書きましょう。(1点×10問=10点)

①	火+田	畑	②	田+心	思	③	人+言	信	④	人+山	仙	⑤	人+木	休
⑥	夕+口	名	⑦	力+口	加	⑧	女+子	好	⑨	自+心	息	⑩	石+少	砂

各文が表す会意の漢字を書きましょう。(2点×6問=12点)

①	鳥の口から発せられる。	鳴	②	田で力を出す。	男	③	木が並んで立っている。	林
④	山のような石。	岩	⑤	日の光や月の光。	明	⑥	人の立つべきところ。	位

仮借文字で書かれた国名をカタカナで書き直しましょう。(2点×6問=12点)

①	亜米利加	アメリカ	②	伊太利亜	イタリア	③	加奈陀	カナダ
④	仏蘭西	フランス	⑤	伊蘭	イラン	⑥	泰	タイ

25 詩①

学年
2年

点

口語体(現在の話し言葉)で書かれた詩を口語詩、文語体(昔の書き言葉)で書かれた詩を文語詩といいます。
音数に決まりがある詩を定型詩、音数に決まりのない詩を自由詩といいます。

比喩…たとえを使った表現技法で、「ようだ」などを用いる直喩、「ようだ」などを用いない隠喩、人間にたとえる擬人法があります。

反復…同じ音や語句を繰り返して、印象を強める表現技法。

倒置…言葉の順序を入れ替えて、強調する表現技法。

体言止め…行の終わりを体言(名詞)で止め、簡潔で引き締まった印象を残す表現技法。

対句…似た構成で意味も対応する二つの語句や文を並べて、興味をひきつける表現技法。

押韻…行の初めや終わりを同じ音でそろえて、調子を整える表現技法。

谷川俊太郎の「未来へ」という詩を読んで、後の問いに答えましょう。(10点×8問=80点)

① 道ばたの①このスミが今日咲くまでに どれだけの時が必要だったことだろう
この形この色この香りは計りしれぬ過去から来た

② 遠く地平へと続くこの道ができるまでに どれだけのけものが人々が通ったことだろう
足元の土に無数の生と死が埋もれている

③ 照りつけるこの太陽がいつか冷えるまでに 目に見えないどんな力が働くのだろう
私たちもまた②その力によって生れてきた

④ 人は限らないものを知ることはいできない
③だが人はそれを生きることができる 限りある日々の彼方を見つめて

⑤ ④未だ来ないものを人は待ちながら創っていく
誰もきみに未来を贈ることはできない ⑤何故ならきみが未来だから

① 線①の「このスミ」と同じように、作者が見つめているものを二つ、詩の中から五字以内で抜き出しましょう。
(この道)と(この太陽)

② 線②の「その力」とは、どのような力ですか。
(目に見えない)力。

③ 線③の「だが人はそれを生きることができる 限りある日々の彼方を見つめて」で用いられている表現技法はどれですか。
ア 比喩 イ 反復 **ウ 倒置** エ 体言止め オ 対句 カ 押韻

④ 線④の「未だ来ないもの」とは何ですか。詩の中から抜き出しましょう。
自分の未来

⑤ 線⑤の「なぜならきみが未来だから」には、作者のどのような思いが込められていますか。
(自分の未来)は自分で(切り開いて)ほしいという思い。

⑥ この詩はどのような形式ですか。
ア 口語の定型詩 **イ 口語の自由詩** ウ 文語の定型詩 エ 文語の自由詩

⑦ 作者が「過去」のことを思って書いているのは、どの連ですか。
第 **1** 連と第 **2** 連

⑧ 第1連から第3連にかけて、作者の視点はどのように動いていますか。適切な方を○で囲みましょう。
(**近**く / 遠く)の(**高**い / **低**い)位置からだんだんと(**近**く / **遠**く)の(**高**い / **低**い)位置へと動いている。

次の文の下線部で使われている表現技法を書きましょう。(5点×4問=20点)

① 夏が過ぎていく、駆け足で過ぎていく。 → (反復)

② 彼の心は氷のように冷たい。 → (比喩[直喩])

③ 耳の奥でいつまでも響き続ける、あなたの声。 → (体言止め)

④ 空はどこまでも高く、海は果てしなく広い。 → (対句)

44 万葉・古今・新古今②

学年
3年

点

表現効果を高める技法を修辞といい、一つの語に複数の意味を持たせる修辞を掛詞といいます。

特定の語句を導き出すための修辞で、文字数に制限があるものを枕詞といい、文字数に制限がないものを序詞といいます。

枕詞…韓衣→裾・袖、あしひきの→山・峰、ひさかたの→光・月、ちはやぶる→神、白たへの→衣、たらちねの→母

序詞…新しき年の初めの初春の今日降る雪の→いやしけ、むすぶ手の滴ににごる山の井の→あかでも

和歌を読んで、後の問いに答えましょう。(10点×10問=100点)

A	韓衣 裾に取りつき 泣く子らを 置きてそ来ぬや 母なしにして (裾にしがみついて泣く子供らを、置いてきてしまったなあ。母親もいないのに。)	【防人歌】 (万葉集)
B	あしひきの 山のしづくに 妹待つと わが立ち濡れし 山のしづくに (山の雫に君を待ち続けて僕ははずぶ濡れになってしまった。山の雫によって。)	【大津皇子】 (万葉集)
C	新しき 年の初め 初春の 今日降る雪の いやしけ 吉事 (新しい年の初め、初春の今日降る雪のように、ますます積もりますますよ、良い事が。)	【お伴家持】 (万葉集)
D	ひさかたの 光のどけき 春の日に しづこなく 花の散るらむ (光がのどかな春の日に、どうして落ち着いた心もなく花は散るのだらう。)	【紀友則】 (古今和歌集)
E	むすぶ手の 滴ににごる 山の井の あかでも人に わかれぬる哉 (両手からこぼれる滴でにごるほど浅い山の井戸のように、飽きないうちにあの人と別れてしまったなあ。)	【紀貫之】 (古今和歌集)
F	ちはやぶる 神世も聞かず たつた河 から紅に 水くるとは (神の時代にも聞いたことがない。竜田川がもみじの葉で水を染めるとは。)	【在原業平】 (古今和歌集)
G	道の辺に 清水ながる 柳かげ しばしとてこそ 立ちどまりつれ (道の脇に清水が流れる柳の木陰がある。ほんの少しと思いつ立ち止まったら、長居をしてしまった。)	【西行法師】 (新古今和歌集)
H	さびしさは その色としも なかりけり 真木たつ山の 秋の夕暮 (寂しさは、その色のせいということではないのだなあ。榎が立つ山の秋の夕暮れが寂しさを感じさせる。)	【寂蓮法師】 (新古今和歌集)
①	Aの和歌から「枕詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 枕詞…(韓衣)、係る言葉…(裾)	
②	Bの和歌から「枕詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 枕詞…(あしひきの)、係る言葉…(山)	
③	Cの和歌から「序詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 序詞…(新しき年の初めの初春の今日降る雪の)、係る言葉…(いやしけ)	
④	Cの和歌で使われている表現技法を二つ選びましょう。 ア 擬人法 イ 倒置 ウ 反復 エ 対句 オ 体言止め	
⑤	Dの和歌から「枕詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 枕詞…(ひさかたの)、係る言葉…(光)	
⑥	Eの和歌から「序詞」とそれが「係る言葉」を抜き出しましょう。 序詞…(むすぶ手の滴ににごる山の井の)、係る言葉…(あかでも)	
⑦	Eの和歌の「あかでも」は「飽きないのに(満足しないのに)」という掛詞です。「満足していないもの」を二つ選びましょう。 ア 水が濁っていること イ 水が飲めないこと ウ 十分話せないこと エ 出会いはないこと オ 井戸が遠いこと	
⑧	Fの和歌の「くるとは」は掛詞で二つの意味があります。その二つを選びましょう。 ア 水が流れない イ 水があふれる ウ 水が葉の下をくぐる エ 水を汚す オ 水を染める	
⑨	Gの和歌から「係りの語」と「結びの語」を抜き出し、「結びの語の活用形」を書きましょう。 係りの語…(こそ) 結びの語…(つれ) 結びの語の活用形…(已然形)	
⑩	Hの和歌の句切れはどれですか。 ア 初句切れ イ 二句切れ ウ 三句切れ エ 四句切れ オ 句切れなし	

57 小論文の書き方

学年

3年

点

自分の意見をはっきり述べる小論文では、「～である」「～だ」で終わる常体か、「～です」「～ます」で終わる敬体で統一します。小学校や中学校で習った漢字は、できるだけ漢字で書きましょう。縦書きの場合、数字は漢数字で書きます。

句読点を付け忘れないようにしましょう。?や!のような記号は使いません。

自分は「私」か「僕」、相手は「あなた」と表します。例) × うち、俺、お前、あんた ○ 私、僕、あなた

尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使いましょう。例) × 校長、お兄さん、おいさん ○ 校長先生、兄、祖父

短縮した言葉は使いません。例) × 携帯、模試、朝練 ○ 携帯電話、模擬試験、朝練習

小論文について述べた文の□に当てはまる言葉を書きましょう。(5点×2問=10点)

① 小論文を書くときは、「～である」「～だ」で終わる常体か、「～です」「～ます」で終わる敬体で統一する。

② 縦書きの場合、数字は漢数字で書き、?や!のような記号は使わない。

小論文として正しい書き方に直しましょう。(2点×15問=30点)

① あたし 私	② きみ あなた	③ 校長 校長先生	④ 教頭 教頭先生	⑤ 担任 担任の先生
⑥ お父さん 父	⑦ お母さん 母	⑧ お姉さん 姉	⑨ おばあさん 祖母	⑩ おじさん おじ
⑪ コンビニ コンビニエンスストア	⑫ ネット インターネット	⑬ スマホ スマートフォン	⑭ 入試 入学試験	⑮ 部活 部活動

小論文を読んで、下線部の語句を正しく書き直しましょう。(2点×30問=60点)

①俺は、他人を思いやることは相手の立場を理解したうえで行動することだと考える。

僕には、クラスメイトのために保健室に付き添った経験がある。そのクラスメイトとは、それまでに②話しをしたことがなかった。③でも具合が悪そうだったから、保健室に行くときに④手助けしたのです。そうしたところ、彼に⑤すごく感謝された。このように、相手の立場を理解することができれば、相手が望んでいることを自分の力で考えようと⑥努力します。その結果、相手の気持ちを⑦察することができる。こうして相手を理解し、思いやることが⑧できるんだ。

⑨ですから私は、他人を思いやることは相手の立場を理解したうえで行動することだと⑩考えたのです。これから社会に出ると、⑪いろいろな立場の人と⑫出会うことになるだろう。そのときに備えて、相手の立場をより理解できるように努力したいと⑬思っている。そのためには言葉だけでなく、相手の⑭表情とかをとらえることや、⑮困っている人にも積極的に関わることを心がけたい。

① 僕は	② 話	③ しかし	④ 手助け	⑤ とても
⑥ 努力する	⑦ 察する	⑧ できるのだ	⑨ だから	⑩ 考えたのだ
⑪ いろいろな	⑫ 出会う	⑬ 思っている	⑭ 表情など	⑮ 困っている

地球環境を守るためには、役所や会社、そして住民である⑯あたしたちそれぞれが協力しなければならない。⑰なぜかという、皆が環境問題に関心を持てば、環境を破壊する行動をおさえることが⑱できるからです。

粗大ごみの不法投棄を例にあげて考えてみたい。⑲前に、粗大ごみの不法投棄に⑳悩やむ町のことを㉑ネットの㉒にゆーすで見たことがある。山奥の道路沿いには、いろいろなごみが㉓捨てられ、景観を壊していた。なかには産業廃棄物と思われる物も含まれており、土壌を㉔汚せんする恐れが㉕ありました。近所に住む人に迷惑がかかるだけでなく、町役場でも処理に税金を使わなければならないと困っている㉖みだだった。町役場だけが環境問題に取り組むのでは不十分である。環境問題に関心を持たない人は、どうしても自己中心的に考えて、環境を守る行動をとらない㉗とゆうことが多くなる。その結果、環境は㉘どんどん悪くなる。

つまり、環境を保護するには皆が手を取り合うことが㉙必要なんだ。皆が環境問題に関心を持ち、環境を守る行動をとれば、環境を破壊することがおさえられるのである。今後は、リサイクル、リユース、リデュースの3Rを推し進める必要があると㉚思う!

⑯ 私たち	⑰ なぜなら	⑱ できるからだ	⑲ 以前	⑳ 悩む
㉑ インターネット	㉒ ニュース	㉓ 捨てられ	㉔ 汚染	㉕ あった
㉖ ようだった	㉗ ということ	㉘ ますます	㉙ 必要なのだ	㉚ 思う。

